

□議員名：河野朋子

1 児童館の運営について

論点	児童館と児童クラブの設置目的は。
回答	児童館は児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、または情操を豊かにすることを目的とする施設であり、児童クラブは、保護者が就労等により昼間家庭にいない子供の健全な育成を図ることを目的としている。

論点	児童館は小野田地区にはあるが山陽地区にはない。総合計画には山陽地区に3館設置となっているが、どうか。
回答	限られた市財政の中で本市の各施策の優先度の面から、児童クラブの施設の新設が優先ということで児童館の新設については見送ってきたところである。

論点	総合計画で一旦決めたことに対して方向転換しているようだが、山陽地区には、児童館を設置する可能性はまだ残っているのか。
回答	厚狭地区複合施設の建設時、また現在進めている埴生地区複合施設の建設、その中では児童館の新設というのは入れていない。それから見ても、今後、児童館の建設については難しいという状況がある。

論点	夏休み期間中、児童クラブが児童館を全部使うために、子育てサークルの活動が休止しているという。改善すべきではないか。
回答	待機児童もふえていると夏休みは児童クラブの利用が非常に多いので、解決策を考えなくてはいけない。学校等の協力等も得られるよう今後、検討していきたい。

論点	児童クラブが児童館の機能に支障をきたしている。せめて夏休みの期間だけでも、学校の空き教室に児童クラブを設置してはどうか。
回答	学校の校舎や空き教室を使わせてもらえるのではないかと指摘の点については、総合教育会議でしっかりと協議し、市長としても意見を述べようと考えている。

## 2 特別支援教育について

論点	平成27年度から、知的障害特別支援学級設置事業が始まったが、その実績についてどうか。
回答	小野田地区へ知的障害特別支援学級を5学級新設し、有帆小、高千帆小、須恵小の3校で11名。高千帆中、小野田中の2校で7名。28年度は、小学校、中学校それぞれ1名の増となっている。

論点	昨年度は毎日、通学ができていた児童が今年度は、当初から予算の問題で午前中のみとなった事例があるがどうか。
回答	個々の児童の状況に応じて判断しており、教員の見込み判断が悪かったのではないかと問われればそうかもしれないが、その教員なりに、その子のためにいろいろ判断されたのではないか。

論点	地元の学級と横並びにある松原分校が果たしてきた役割は、地元の特別支援学級にスライドしていくと考えるがどうか。
回答	特別支援学校に当たるような松原分校という存在があって、本市の子供たちもそういう必要性のある子供がそこに行けるという状況は必要ではないか。

論点	県の支援学校は1学級6人に対し、松原分校の学級編成は8人1学級で、市内の特別支援学級と同様だが、何が違うのか。
回答	松原分校には専門性を身につけ、長く特別支援に当たってきたり、これから一生懸命勉強しようという先生方を配置しているつもり。

論点	支援学級ができ、受け皿ができた今こそ、これまでの松原分校の役割をきちんと見直し、教育委員会として、本市の特別支援教育のあるべき姿をきちんと示すべきだと思うがどうか。
回答	地元の小学校中学校でも、特別支援学級という隔離された別な部屋で授業を受ける。松原分校は、知的障害の子供たちだけが集まったがゆえにいじめを知らないというふうになっている。